

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、ともに生き抜く子ども

取組目標

「つながる力を育てよう」

～地域の一員であることを自覚し、誇りを持つ子どもを育てる～

【今年度の取組紹介】

あやめ池小学校の図書ボランティアでは、通常本の修理や新刊のブッカーなどの作業のほかに、ブックトーク(テーマに沿った本の紹介)を行って子どもたちが本に親しむきっかけづくりをしています。例年であれば各教室に行き直接子どもたちの前で行ってましたが、今年はそれができないためビデオに撮って紹介しています。画面を通してなのでわかりやすく興味を持たせるよう工夫しています。地球の成り立ちを以前は黒板をはみ出す模造紙を使って表現していましたが、ビデオでは30センチの定規に置き換え生き物の誕生が5.22センチ、人間になったのは29.9987センチといった具合に表現しました。今はできることを継続し、無理のない範囲で楽しく活動しています。

写真は、一番上がコロナ前、教室で子ども達の表情を見ながら活動できていましたが、二枚目は、コロナ後。ビデオを通しての活動風景です。



【今年度のまとめ】

コロナ感染拡大の影響で、1学期は活動自粛。2学期から、ようやく感染防止策をとりながら、活動を開始。残念ながら、地域清掃や、自治会の活動も全て中止となったため、参加もできず、それぞれ学校の方針により、地域との交流の場である、昔遊びなどができなかったところもありました。

中学においては、少しずつ子どもたちの学習に対する取組が落ち着きだした秋ごろから、漢検を第二回から実施しましたが、やはり、資格取得に対する学習意欲は強く、多くの受検があり、手ごたえを感じる事が出来ました。

【来年度に向けて】

コロナが収束方向に向かったにせよ、あまり派手な活動はせず、地道にできる範囲で子ども達をサポートできるよう努めていきたいです。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生き抜く子ども

取組目標

「つながる力を育てよう」 ～「伏見中 大好き！」と心から言える日のために～ 地域と共に育つ生徒の育成**【今年度の取組紹介】****◆「100万回生きたねこ」の読み聞かせ（9月25日）**

図書ボランティアさんに読み聞かせをしていただきました。
毎年1年生を対象におこなっていただいています。

「言葉を一言ずつはっきりと聞き取ることができ、話の筋が良く分かりました。」「本のイラストの見せ方が上手で、お話の世界に引き込まれました。」「ぜひ、また来てください。」と、読み聞かせならではの感動を味わうことができたようでした。

**◆図書室環境整備（通年）**

中央図書館の司書さんが来校される時に合わせて、ボランティアさんたちも来てくださっています。司書さんの専門的なご意見をお聞きしながら、本の配置、新刊の選書等おこなっています。昼休みの開館時には生徒たちと話をし、希望図書の聞き取りや、おすすめ本の紹介をしてくださいました。図書室に行く生徒数が増え、本に親しむ機会が多くなったと感じています。来年度以降もさらに充実した取組にしていきたいと考えています。

**【今年度のまとめ】**

新型コロナウイルス感染症対策をとりながら慎重に活動をすすめました。毎年3回おこなっている漢字検定は2回にしました。教室、手指の消毒、マスクの着用、検温等、徹底しました。図書ボランティアさんたちは来校する人数を制限し、マスクとマウスガードの併用着用で対策してくださいました。外でおこなっている花植えボランティアや環境整備清掃などは地域の方々と生徒たちが一緒に活動することができました。古くなっていた校門横フェンス沿いの掲示板を「どうにかできないものか。」と地域の方からお声をいただき、美術部が絵を描きました。通行する方々にも喜んで見ていただけるものが完成しました。地域連携を主軸とした、「地域と共に育つ生徒の育成」を目指し、今年度はできることを考えて、取り組むことができました。

【来年度に向けて】

今年度はふれあい行事が全く開催されませんでした。毎年生徒が活躍する地域交流事業や地域ボランティアに参加することもできず、残念な一年でした。こんな時だからこそ、情報発信・啓発活動にも力を入れ、コーディネーターやボランティアによる、よりよい体制づくりに取り組みたいと思います。

めざす子ども像

地域に誇りをもち、心豊かに、共に生きぬく子ども

取組目標

「いきいきわくわく地域とともに」～伏見でふれ合い、学び、育つ伏見っ子～地域に根ざした「自ら学ぶ子ども 心豊かな子ども たくましい子ども」の育成**【今年度の取組紹介】**

主な柱を「地域連携による伏見まつりの開催～子どもの笑顔が地域を笑顔に～」 「地域文化遺産学習等を通じた学校教育活動の充実」 「夏季清掃や本の補修作業等を通じた学校環境整備」とし、取組を進める予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、大幅に縮小し、取組を実施しました。

「子ども見守り活動事業」では、子どもの登下校の時間に多くの地域の方々に通学路に立っていただき、安全を見守っていただきました。また、今年度は、見守り隊員紹介式をリモートで行いました。

学校環境整備の側面からは、地域ボランティアの方々と自然委員会の子どもたちが一緒になって花壇や中庭の整備等を取り組みました。今年度は、中庭にある池の清掃を行いました。また、図書ボランティアの方々と図書委員会の子どもたちと一緒に図書室の蔵書補修等を行いました。読み聞かせで使用する本が増えてきたので、整理するための本棚を作成しました。このように、多くの方々が、より良い学校環境づくりに力を尽くしてくださいました。

**【今年度のまとめ】**

教育活動の活性化、地域拠点としての学校の機能の維持向上、子ども・地域・学校相互のより良い関係形成の面において、次のような様子から、一定の効果を得ることができたと考えています。

- ・地域の方との交流の機会が少なくなったが、その少ない機会の中でも、子どもたちが地域の方へのお礼の気持ちを伝え活動を通して、地域に対する愛着、関わってくださる方々への感謝の気持ち等が育ってきました。

- ・学習を通して、子どもたちが自分にできることを考える等、今後の素地となる活動や体験を行うことができました。

【来年度に向けて】

諸活動に携わってくださる方の世代交代や新たな人材の参加は徐々に進みつつありますが、継続的かつ安定的な人材の確保が課題であると考えます。また、毎年予算が減額されることや働き方改革の観点からも、事業の見直しの必要があると考えます。地域の方の今まで以上のボランティア的協力や教職員の地域行事への参加方法を検討していく必要があると考えます。更に、コロナ禍において、どのように取組を実施していくかを検討していく必要があると考えます。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち心豊かに共に生きぬく子ども

取組目標

「出会いと体験から豊かな学びを」ー地域ぐるみの子育てー**【今年度の取組紹介】**

本校では、2つの団体の方々が図書館教育の充実にご尽力いただいています。本との出会いを通して、心豊かな子に育ってほしいと願っています。

【お話の会】

地域のボランティアの方が、各教室で本の読み聞かせをしてくださっています。今年度は、コロナの影響でライブの回数を控えて、録画配信にもチャレンジしていただきました。子どもたちはあっという間に、物語の世界に引き込まれていきます。

【図書ボランティア】

自作の紙人形・脚本を用いたパネルシアター劇で、本の紹介をしていただいています。教科書に掲載されている物語の作者の他の作品を中心に録画配信にチャレンジいただきました。また、本の修繕や図書館の充実にもお力添えをいただいています。子どもたちの読書環境が充実しています。

**【今年度のまとめ】**

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策と本事業の一層の充実を考えての取組となりました。限られた中ではありますが、学校に地域の方が集まっていただくことで、学校と地域の連携がさらに深まり充実し、新たな取組が創造できると思います。ICTを活用した取組は今年度から始めていただきました。関わってくださったボランティアさんの累計は1900名を超えました。すべての方々のご尽力をもって子どもたちが「心豊かに育つ」学校教育が展開できたと考えております。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染拡大防止対策と本事業の充実をすべての関係者の皆様のお知恵をいただきながら、「地域に誇りを持ち心豊かに共に生きぬく子どもの育成」に向けた取組を継続・発展させていきたいと思ひます。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども

取組目標

自分たちが暮らす地域に親しみを持ち、自分たちが地域の人たちに支えられていることを感じられるような行事を作っていく。

【今年度の取組紹介】

◆ぶっくらばこ図書室環境整備（通年）

ぶっくらばこの活動として例年は図書室の環境整備と読み聞かせを行っています。しかし今年度は外部からの来校者を減らすことや、子どもたちの密を避けるために、読み聞かせ事業を実施することができませんでした。しかし、コロナ禍の過ごし方として、読書活動を啓発し、書籍を増やしたこともあり、ブッカーかけや棚の整理などに力を注いでくださいました。おかげで子どもたちが図書室に通う機会も増え、来年度以降もさらに充実した取り組みにしていきたいと感じています。



◆昔あそび（1月24日金曜日）



毎年、地域の方々に「昔あそび」を教えていただいています。今年度はコロナ禍の中での実施に戸惑いもありましたが、ソーシャルディスタンスを保ち、時間にゆとりをもって実施しました。コマ回し、あやとり、羽子板など、様々な遊びを教えていただき、一緒に楽しむことができました。この交流を通して、地域の方々と子どもたちとの繋がりが深まり、子どもたちが自分の町を好きになる大切な行事となっています。

【今年度のまとめ】

コロナ禍の中、例年実施してきた事業の見直しを行わざるを得ませんでした。これまで毎年行ってきた伝承文化事業（能体験）やPCサポート事業、読書啓発事業（読み聞かせ）については、外部の方と子どもたちの関わりが密になるため、中止に至りました。しかし校内環境整備については、例年のように一度に大勢の参加者を募って子どもたちと作業することは避け、期間を設けて参加者が分散するように活動を行いました。また、昔遊びについては、時間短縮、地域の方々の来校者数、実施場所などに工夫を凝らして実施することができました。

コロナ禍の中で、事業を精選する良い機会になったと捉え、来年度につなげていきたいと思えます。

【来年度に向けて】

今年は中止した事業が大半で、ホームページでの学校の取組や地域との交流の紹介が少なくなっていました。来年度は今年度の経験をいかし、どの活動をどの程度まで実施できるのかを、コーディネーターと協議しながら実施していきたいと考えています。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども

取組目標

身近な人と人との輪の中で、豊かに学び、自ら考え行動する子どもを育成する。

【今年度の取組紹介】

～地域の人と一緒に楽しもう事業～

【サッカーを楽しもう】

地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、年4回運動遊びやサッカーを教えていただきました。今年度はクラスごとに時間を分けて行いました。準備体操から始まり、合図を聞いていろいろな動きをしたり、ボールを蹴ってシュートをしたりしました。4歳児は、友達と一緒に動くことが楽しく「走るの楽しいな」「ゴールに入った」と喜んでいました。5歳児は最後の試合では途中で作戦会議をして「ボールがきたら、みんなで攻めよう」など友達と相談しながら進める姿に成長を感じました。



【習字を楽しもう】

地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、5歳児が年3回、墨や筆を使って習字を教えていただきました。手や体も大きく動かしながら、筆の動きを体験した後、筆を使って細い線や太い線から始まり、色々な字を書きました。「今日は何を書くのかな」と楽しみにし、『た』って『こ』の字が入ってるなあ」など発見しながら、話もしっかりと集中して聞き、「大きく書けたよ」と意欲的に取り組んでいました。文字に興味を持つきっかけにもなりました。



【今年度のまとめ】

地域の方やゲストティーチャーとの体験活動は普段経験できないことに触れる機会となり、子ども達にとって豊かな学びとなりました。また、地域の方々がいつも温かく接してくださることで、回を重ねるごとに、子どもたちは親しみを感じ、自分から挨拶をしたり話しかけたりするなど積極的にかわっていき姿につながりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、学年やクラスごとなど、時間も限られる中でありましたが、子ども達は毎回活動を楽しみにしており、絵本の読み聞かせ活動では豊かな心情や話を聞く態度が育まれました。

【来年度に向けて】

来年度も地域の方や子ども達が安心・安全に取り組めるように、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じながら、園、地域、家庭と連携し、子どもにとってよりよい心豊かな体験ができるように、引き続き事業を継続し、保育の充実が図れるように検討し、計画して行きたいと思います。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、**共に生きぬく子ども**

取組目標

地域とのつながりを繋げる・広げる・深める**～地域の教育力を活かし、心揺さぶられる感動体験の充実と心豊かな子どもの育成～**

【今年度の取組紹介】

◇木製遊具づくり（環境整備事業）

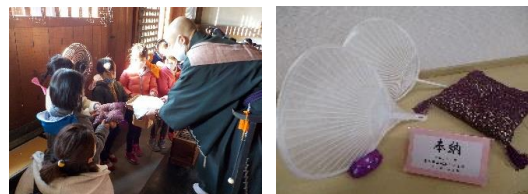
子ども達が主体的に活動する場を整えるために、環境整備事業として地域の方と木製遊具をつくりました。木工職人の方と地域の方が組み立てる前に、自分たちができることを考え、木が丈夫になるように地域の方とペンキ塗りをしました。「絵の具みたいに塗るんだね。」「お家でお父さんとしたことあるよ。」などと地域の方と話をし、少しずつ出来上がってくる遊具に「早くできてほしいな。」「ここから登るんだよね。僕たちが塗った木ははしごの部分だ。」と、日々期待が膨らみました。子ども達が自然と挨拶したり、地域の方や木工職人の方の名前を呼び、声をかけたりする姿も見られ、遊具が完成後、地域の方を招いて「竣工式」を開きました。

また、保護者を巻き込んで、遊具の名前を募集して決め、子ども達の思いが詰まった『ふしみスライダー』に決まりました。「上に登ったら、景色がとってもきれい。」と、新しい遊具にとっても喜び、思い切り体を使って遊ぶ体験を積み重ねることができました。後日、新しいボランティアの方と、遊具と組み合わせて使うことができる木製用具を一緒につくりました。みんなで取り組んだ木製遊具づくりが、地域とのつながりを広げ、様々な人と関わる楽しさを感じ、温かい心に触れる機会となり、地域の方との関係を深めることができました。



◇蚕の飼育・喜光寺へ園外保育（地域学習事業・世界遺産学習事業）

5歳児が中心となって、蚕を育てました。「どうやって大きくなるんだろう。」と、図鑑で調べたり、地域の方に教えてもらったりしながら、毎日世話を続けることで、生き物へのいたわりの気持ちが芽生えました。昔は、生活するために蚕が必要であったことや、蚕は繭をつくり成虫になると餌も食わずに命が尽きることを知り、昔の人に思いを馳せながら、自分たちの生活と結びつけて考え、取り組みました。いよいよ蚕が繭になる姿を見届け、一本一本の細い絹糸を何か形に残したいと自分たちで考え『絹糸のうちわ』と『りん座布団』をつくり、命への感謝の気持ちをもち、喜光寺へ奉納することにしました。副住職から「大切な命を使ってつくられたものです。大切にします。」と聞き、命へのいたわり・大切さを改めて感じました。自分たちの住んでいる町にある喜光寺に、大切に育てた蚕の証があることは、子ども達の心にずっと残り、豊かな心を育むことができました。



【今年度のまとめ】

地域の方と交流する「いきいき広場」や「絵本読み聞かせ」を通して、子ども達が地域の方と心をつなぐ取り組みや、英語に触れて遊んだりサッカーで体を動かして活動したりする体験活動は、子ども達の心を動かし、人と関わる楽しさや楽しさを感じ、心豊かな子どもの育成につながりました。また、地域の方や保護者に掲示物で啓発したり、自由に参観する機会をつくったりしたことで、保護者から「こども園に地域の方の力がこんなにも注がれていること改めて感じた。」「講師の先生と遊べる日を、毎回とても楽しみにしています。」等の声が聞かれ、園での取組を理解していただくことができました。

【来年度に向けて】

地域の方とのつながりを広げ、深められることができる方法を考え、取り組んでいきたいです。今年度取り組んだ活動内容を踏まえ、次年度も継続して取り組む活動と、子ども達の実態に合わせた活動を取り入れながら年間計画に位置付け、計画的に進めていきたいです。